

くらしの目線で市政を変える

こんにちは

日本共産党

市会議員

西野さち子です



醍醐・桃山から「脱原発」のメッセージをとどけよう!!



市の防災対策の見直しを迫る共産党市議団のみなさん

京都市の原発事故対応は 抜本的に見直しを!!

日本共産党

日本共産党市会議員団は、9月5日、市長に対して申し入れをしました。

京都市防災対策総点検委員会が提出した「中間報告」。その中には、原発事故に関して被害予測を過小に評価する等の重大な問題点があります。「緊急時計画区域は20kmでいい」「琵琶湖に放射性物質が飛散しても水量が多いので薄められる」「水道水になる前にろ過等の浄化をしているから」等と何の科学的根拠もない報告がぞくぞく。原発への安全神話が崩壊した今、市民に新たな不安をもたらすことは許されません。京都市全体を視野に入れた原子力防災対策や琵琶湖の水汚染の危

険性を直視し、防災対策を確立すること等の申し入れを行いました。

2012年春 中村市長の実現で 市長選挙 いのちくらしを守る市政を

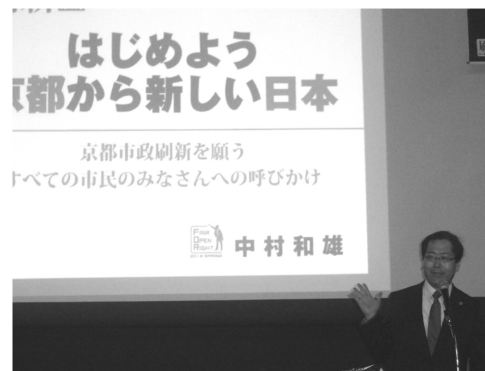
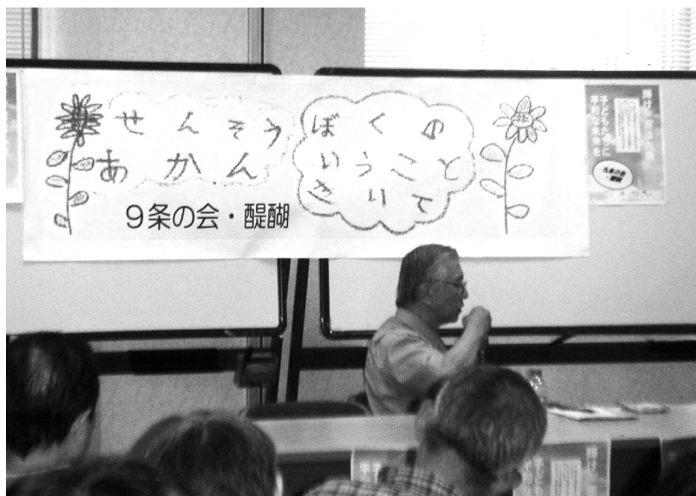
「民主市政の会」は、来年2月予定の市長選挙の候補者として中村和雄さんを推薦することを決しました。中村和雄さんは「全国の政令市の中で原発が一番近いのが京都市。原発事故は一瞬にして千年の都を廃墟にしてしまう」と脱原発の立場を明らかにされました。また「中小企業の底上げ・生活保障・医療・教育の充実」等を政策に掲げられました。

「どうなる?これからの原発」

九条の会・醍醐5周年記念

九条の会・醍醐が発足して5年。これまで毎月の例会を欠かさず行い、平和に関する様々な問題で勉強を積み重ねています。平和憲法の成り立ちや憲法改悪の国会の動き、教育基本法の改悪問題など、その時々の問題について学んできました。

今回は、5周年の節目として原発問題を抜きに平和は語れないと、立命館大学名誉教授（放射線防護学、平和学）の安齋育郎さんに来ていただいたの講演や文化行事を行いました。当日は会場満員の100人を超える参加者で、資料が足らなくなりました。質疑応答も時間が足らなくなる盛り上がりでした。



市民大集会

10月13日(木) 午後7時

みやこめっせ 左京区岡崎

今の門川市政は、完成から1年半以上経ってもまだ本格稼働できない焼却灰溶融炉に、年間16億円以上つぎ込む一方で、高すぎる国民健康保険料は3年連続の値上げです。こんな市政をこれ以上続けるわけにはいきません。いのち・くらしを守る中村和雄市長実現へ力をあわせましょう。